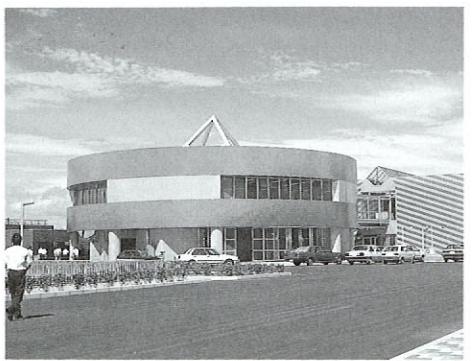


水産業・再発見

ロボット、ハイテク機器が大活躍。 海では魚の「栽培」が始まっていた。

先進技術を取り入れたマリノベリション構想や養殖研究など、熊本の水産業は大きく変わろうとしています。今回は二人の「くまもと女性特派員」に平成二年にオープンした水産研究センター（天草郡大矢野町）と不知火海の沖合養殖パイロットファームを見学していただきました。
レポーターは、東栄子さん（下益城郡松橋町）と濱崎千賀子さん（天草郡龍ヶ岳町）のお二人です。



水産研究センター



「マダイの薫製はウイスキーに合いそう」濱崎千賀子さん(左)と東栄子さん(右)

●楽しみながら分かる水産業 養殖マダイの薫製もうまい！

水産研究センターを目指していくと、船型の建物が見えてきました。さすが水産研究センター。上空から見ると建物は釣針とエサをイメージした形だそうです。陽光を採り入れたガラスの渡り廊下、見上げれば、ヒラメの形のランプシェードが目を楽しませてくれました。ここには企画情報室、資源・養殖・漁場環境・利用加工・応用技術の各研究部があり、①栽培漁業の推進拠点づくり②養殖真能本づくり③流通加工戦略「生産物の効率的な活用」という、大きな三つの柱を中心に日々研究がなされています。

海を取り巻く環境も変わり、パイロットで水温・塩分を調べているとの話にビックリ。長洲・小島・長浜・田浦の海中で四基のパイロポットが休むことなく働いているのだそうです。海を守り育て活用していくと、人間・機械・自然が一体となって働いているのです。また、バイオテクノロジーを使って、マダイやヒラメを早く大きくする方法も研究されているということです。メダカのようなオニコセの赤ちゃん

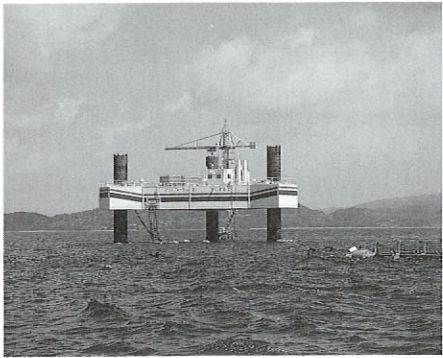


「わあ、5mmのオニコセ!!」

にまで、おいしいん坊の私は舌なめずりをしてしまいました。しかし、何と云っても、研究中の養殖マダイの薫製はスモークサーモンにも劣らぬおいしさでした。シイラの薫製もあるそうです。早く、食べられるようになると良いですね。ここは、日曜・祝日も開館されており、見学自由です。ビデオ「海を拓く」も分かりやすく、子供でも興味を持ってそうです。天草へ行ったら、ゆっくりと海について考えたり話し合ったりする時間を持つても良いのではないのでしょうか。また、家族と共に立ち寄ってみたいと思います。
（松橋町・東栄子）

●ハイテクが生んだブリが たぐいまれ人気上昇中

日本の食卓から「魚離れ」が叫ばれて久しいこの頃、日本人の寿命を延ばすことに貢献した魚介類をもっと食



沖合養殖パイロットファーム

卓に。そして、生産者が自然条件に左右されず、経営の安定を図る方法はないか？ 漁業の町に住む私にとって水産業は大きなテーマです。その答を得るべく熊本パイロットファーム漁業生産組合長の濱忠臣さんの加工場（本渡市）を訪ねました。



さすが主婦。見事な包丁さばきです

箱詰めしトラックに積み込まれます。水揚げから出荷までの速いこと。新鮮な魚を食べやすく、という消費者ニーズに、パートの主婦たちが見事なパワーで支えていました。これらのブリを育てているのがパイロットファーム。船で約十五分、海に浮かぶ三本足の無人ステーションに上がりました。ここから百メートル先にあるいけすまで管が海中を通っていて、自動的に給餌される仕組みになっています。スイッチを入れると餌をもらったいけすはバシヤバシヤと海面が盛り上がります。キャビンの中にはハイテク機器があり、魚の様子が

テレビ画面に写し出されていました。熊本の水産業は「とる漁業」から「つくり育てる漁業」へと変わりつつあります。沖合養殖パイロットファームは、豊かな自然と最先端技術との結びつきで実現した世界初の養殖事業です。濱さんたちはここで愛情を込めて二年間で約五割のブリに育てます。ハイテクを駆使して魚を育て、流通を合理化、簡素化することで価格の安定を図るなど、様々な工夫もなされていました。ところで先端技術も栽培漁業も豊かな海あつてのこと。一人ひとりが海をもっと大切にしようではありませんか。未来の子どものために。
（龍ヶ岳町・濱崎千賀子）

マリノベリション構想とは…

熊本県では全国に先駆けて昭和61年3月、不知火海を対象にマリノベリション構想を策定しました。マリノベリションとは、マリン(海の)とイノベーション(技術革新)とを合わせた造語で、「先端技術を取り入れた21世紀型の水産業」を目指すものです。

この構想は、①漁場環境の維持保全②水産物の安定供給 ③沿岸域の定住圏の確立 ④海の文化の伝承の4本柱からなり、昭和63年度から次の実証事業を実施しています。

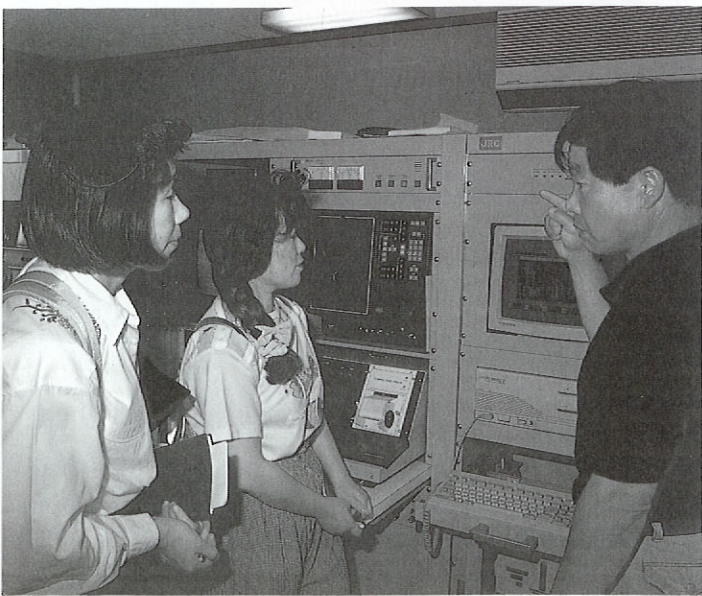
■海域遮断システム開発

電気スクリーンを利用し、マダイとヒラメを用いて放流用の稚魚を大量生産する実験を行っています。

■天然飼料増殖促進システムと漁場環境モニタリングシステムの開発

■沖合養殖パイロットファーム

国や県、企業、大学が一体となった(社)マリノフォーラム21が事業主体となって、天草の恵まれた自然の中で、先端技術を用いて新しい養殖システムを開発するものです。不知火海に浮かぶ無人ステーションではドライフトを使用した自動給餌装置や監視装置により、大幅な省力化と養殖システムのデータを蓄積しています。



パイロットファームの中にはハイテク機器がずらり 右端は濱忠臣さん